



米 国

1 農・畜産業の概況

米国経済における農業の位置付けは、他産業の発展に伴い低下傾向にあるが、2012年のGDPに占める農業生産（農産物販売額：該年度の販売数量×平均価格）の割合は2.4%となり、前年並みとなった。世界的に見ると、2012年の農業生産額は、前年と同様、中国およびインドに次いで第3位となったものの、農産物輸出額は首位となるなど、依然、米国農業の影響力は、高い水準にある。

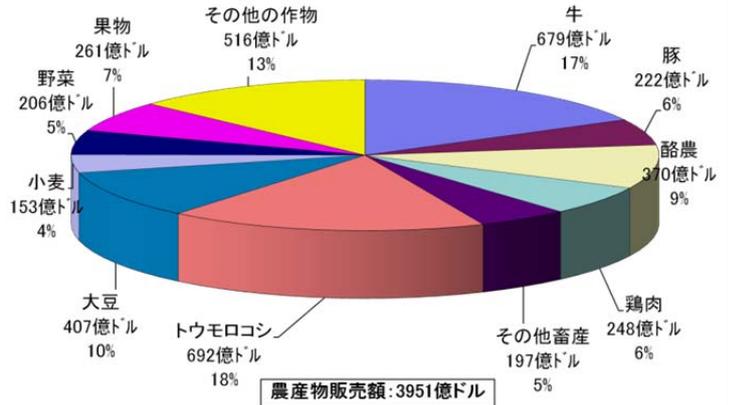
2012年の農業経営体数（農産物の年間販売額1,000ドル以上）は、211万戸であった。農用地面積は9億1460万エーカー（3億7000万ヘクタール）、1経営体当たりの農用地面積は433エーカー（175ヘクタール）であった。なお、年間10万ドル以上の農産物販売実績のある経営体は全体の19.0%で、全農用地面積の68.1%を占めている。

2012年の農産物販売額は、3951億ドルと前年を7.4%上回った。このうち、作物部門は2235億ドルで、前年比10.6%増となり、特に大豆は同22.4%増となった。畜産部門は、1716億ドル（同3.4%増）となり、農産物全体に占めるシェアは、前年を1.7ポイント下回る43.4%となった。

畜産部門の品目別販売額を見ると、肉用牛が679億ドル（農産物全体に占める割合は17.2%）と第1位で、次いで酪農が370億ドル（同9.4%）となった。

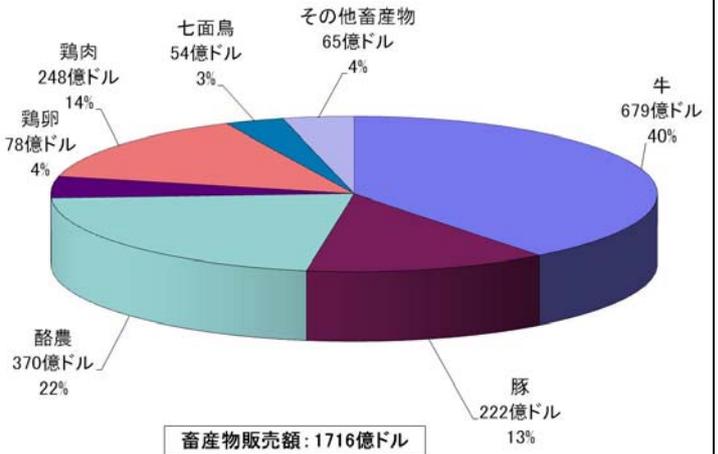
また、作物部門では、干ばつの影響により高値で推移したトウモロコシの販売額が692億ドル（同17.5%）と最大であり、畜産および作物部門は、米国農業で大きな比重を占めている（図1、2）。

図1 農産物販売額（2012年）



資料：USDA「United States and State Farm Income Data」
注：暫定値

図2 畜産物販売額（2012年）



資料：USDA「United States and State Farm Income Data」
注：暫定値

2 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

米国は、年間 9000 万トンを超える量の生乳を生産する世界最大級の酪農国である。しかし、国内に巨大な消費市場を抱えていることなどから、国際乳製品市場での米国の位置付けは、さほど高いものとはなっていない。

① 主要な政策

酪農の主な制度には、連邦生乳マーケティング・オーダー制度(FMMO)と乳製品価格支持制度(DPPSP)がある。FMMOは、オーダー(生乳取引地域)内で取り引きされる生乳について、それを飲用向けと加工向け 3 分類の計 4 分類の用途別に分け、それぞれの最低取引価格を設定するとともに、生乳取扱業者に対して、生産者へのプール乳価(用途別乳価を加重平均した乳価)支払いを義務付けている。これにより、生産者に対しては、安定的な収入を確保させること、また、消費者に対しては合理的な価格で牛乳・乳製品を供給することを目的としている。2000年1月からは、紆余(うよ)曲折を経て、①オーダー数の再編統合(当初の 31 地域が段階的に縮小され、2004年4月からは 10 地域となった。)、②生乳の用途区分の再分類(3区分から4区分へ)、③最低取引価格の設定に用いられる価格について、これまでの基礎公式価格(BFP)に代えて、多成分価格形成システムに基づく新基礎価格の導入、などの変更が加えられた。

一方、DPPSPIは、米国農務省(USDA)の一機関である商品金融公社(CCC)が、支持価格でチーズ、バターおよび脱脂粉乳を買い上げることにより、加工原料乳の価格を間接的に支持する制度である。

この制度は、2008 年農業法において、これまでの加工原料乳価格支持制度の仕組みを実質的に維持した上で、名称を「乳製品価格支持制度」に改め、加工原料乳の支持価格を廃止して主要乳製品の支持価格を法律で定める制度として変更された。

なお、2014 年農業法では、加工原料乳価格支持制度等は廃止され、酪農マージン保護計画(Dairy Margin Protection Program)に置き換わるとされている。

② 生乳の生産動向

ア 酪農経営体数

酪農経営体数は、小規模層を中心に一貫して減少傾向で推移しており、2012年には5万8000戸(前年比3.3%減)となった(表1)。一方、1戸当たりの飼養頭数は増加傾向で推移している(図3)。

表1 酪農経営体数、飼養頭数の推移

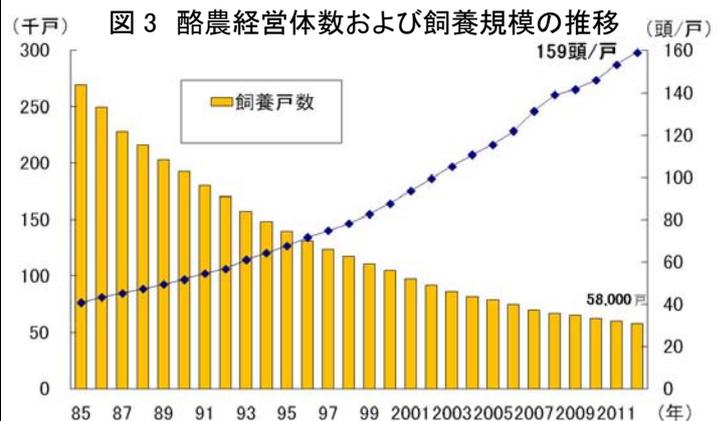
(単位:戸、千頭、頭/戸)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
酪農経営体数	67,000	65,000	62,500	60,000	58,000
経産牛頭数	9,315	9,203	9,117	9,194	9,233
1戸当たり飼養頭数	139	142	146	153	159

資料:USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」,
「Milk Production, Disposition and Income」

注 1:経産牛頭数は、年間平均の飼養頭数。

2:1戸当たり飼養頭数は、経産牛頭数を経営体数で除したものの。



資料:USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」,
「Milk Production, Disposition and Income」

イ 飼養頭数と生産量

経産牛飼養頭数は、1980年代中頃から一貫して減少傾向で推移してきたが、1999年に下げ止まった後は、小幅な増減を繰り返している。2012年の経産牛飼養頭数は、923万3000頭(前年比0.4%増)と、わずかに増加した。

また、2012年の生乳生産量は、好調な乳価を受け、酪農家が増頭を行ったことや、1頭当たりの乳量が増加したことを受け、9100万トン(前年比2.2%増)と、3年連続で増加した(表2)。

表2 生乳・乳製品の生産量

(単位:千トン)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生乳	86,174	85,880	87,474	88,978	90,962
バター	746	713	709	821	843
脱脂粉乳	689	686	709	689	800
チーズ	4,496	4,570	4,737	4,809	4,938

資料:USDA「Milk Production, Disposition and Income」,「Dairy Products」
注:チーズはカッテージチーズを除く

ウ 経産牛1頭当たり乳量

経産牛1頭当たり乳量も増加傾向で推移しており、2012年では、9852キログラム(前年比1.8%増)となった(図4)。

図4 生乳生産量と1頭当たり乳量の推移



資料:USDA「Milk Production, Disposition and Income」

エ 地域別生産動向

生乳は、全ての州で生産されているが、生産量の5割強は上位5州(カリフォルニア、ウィスコンシン、アイダホ、ニューヨーク、ペンシルバニア)によって占められており、上位10州(6位以下:テキサス、ミネソタ、ミシガン、ニューメキシコ、ワシントン)を合わせると、全体の7割強を占めている。

さらに一部の州では、安価な労働力の確保を背景とした大規模化が進んでおり、当該地域を代表するカリフォルニア州は、1993年にウィスコンシン州を抜いて国内最大の生乳生産州になって以降、生産を拡大している。しかしながら、カリフォルニア州の生乳生産量は、2008年終盤の国際乳製品価格の暴落を受けて、2009年には1792万トン(前年比4.1%減)となった、その後回復に転じ、2012年は1896万トン(同0.8%増)と増加傾向にある。また、生乳生産量第2位のウィスコンシン州は、1235万トン(同4.5%増)となった。

酪農家での乳牛飼養風景



③ 牛乳・乳製品の需給動向

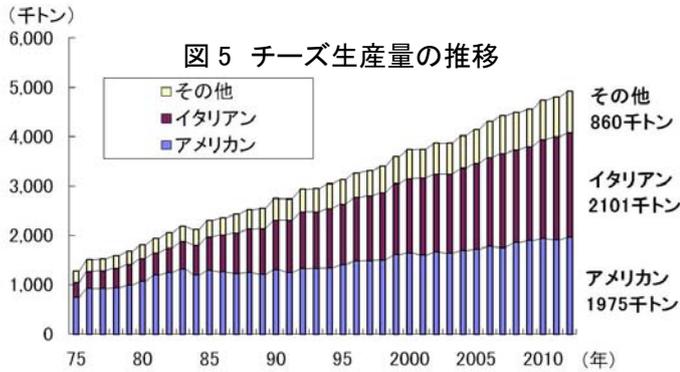
ア 生産動向

2012年のチーズの生産量(カッテージチーズを除く。)は、前年比2.7%増の493万8000トンとなった(図5)。このうち、チェダーチーズを中心とするアメリカンタイプ^(注1)の生産量は、197万5000トン(同3.0%増)となり、モッツアレラチーズなどイタリアンタイプ^(注2)の生産量は、210万1000トン(同1.0%増)となった。イタリアンタイプは、宅配ピザやファストフードでの需要の増加により、過去20年以上増加基調で推移している。同年のチーズ生産量に占める割合は、アメリカンタイプが40.0%(前年比0.1ポイント増)となった。一方、イタリアンタイプが42.6%(同1.0%ポイント増)となった。

また、脱脂粉乳の生産量は、80万トン(前年比17.7%増)、バター生産量は、84万3000トン(同2.8%増)となった。

(注1)アメリカンタイプには、チェダー、コルビー、モントレージャックなど含む。

(注2)イタリアンタイプには、モッツアレラ、パルメザン、プロヴォローネ、リコッタ、ロマーリオなど含む。



資料:USDA「Dairy Products」

イ 消費動向

1人当たりの年間飲用乳・クリーム消費量(製品ベース、以下同じ)はほかの飲料との競合などにより、近年、おおむね減少傾向で推移し、2012年は、88.5キログラム(前年比1.2%減)となった。なお、飲用乳の消費は、近年の健康志向を反映し、低脂肪牛乳、脱脂牛乳など、低脂肪タイプへの移行が進んでいる。

一方、1人当たりの年間チーズ消費量(カッテージチーズを除く。)は近年、増加傾向で推移しており、2012年は15.1キログラム(前年比0.8%増)となった。また、1人当たりの年間バター消費量は2.5キログラム(前年同)となった。

④ 牛乳・乳製品の価格動向

ア 生乳価格

2012年の生乳の生産者販売価格は、大きく落ち込んだ2009年から回復しているものの、100ポンド当たり18.53ドル(前年比8.0%安)となった(表3)。なお、加工原料乳の生産者販売価格は、2011年3月以降、数値が公表されていない。

表3 生乳の生産者販売価格

(単位:ドル/100ポンド)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
加工原料乳価格	17.91	12.03	14.56	-	-
生乳平均価格	18.41	12.84	16.28	20.14	18.53

資料:USDA「Agricultural Price」

注1:加工原料乳価格は、グレードBの加工規格の生乳価格

2:2011年以降の加工原料乳価格は、数値の公表がないため「-」としている。

イ 乳製品の卸売価格

2012年の乳製品の卸売価格は、生乳生産量の増加に伴い、乳製品生産量が増加したことを受け軒並み下落し、脱脂粉乳が1ポンド当たり134.7セント(前年比11.2%安)、チェダーチーズが169.8セント(同6.0%安)、バターが160.3セント(同18.3%安)となった(表4)。

表4 乳製品の卸売価格の推移

(単位:セント/ポンド)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
バター	146.3	124.3	172.8	196.2	160.3
脱脂粉乳	124.6	95.2	119.7	151.7	134.7
チェダーチーズ	183.6	125.2	149.6	180.6	169.8

資料:USDA「Dairy Market News」

注1:バターはシカゴ・マーカントイル取引所の現物価格(グレードAA)

2:脱脂粉乳は西部のFOB価格

3:チーズはシカゴ・マーカントイル取引所の現物価格

小売店でのチーズの陳列風景



⑤ 乳製品の政府買い上げ

2012 年は、堅調な輸出需要を反映して米国内の乳製品価格が堅調に推移したことから、商品金融公社(CCC)による余剰乳製品の買い上げは 2 年連続で実施されなかった(表 5)。

表 5 乳製品の政府買い上げ数量の推移

(単位:千トン)

区分/年	2007	2008	2009	2010	2011	2012
バター	0	0	12.9	2.3	0	0
チーズ	0	0	1.5	0.1	0	0
脱脂粉乳	0	50.2	104.2	0	0	0
乳脂肪分ベース (生乳換算量)	0	10.9	318.9	50.8	0	0
無脂乳固形分ベース (生乳換算量)	0	584.6	1,230.6	1.4	0	0

資料:USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook: Tables」

(2) 肉牛・牛肉産業

米国は、世界の牛肉生産量の約 2 割を占める最大の生産国であると同時に、世界有数の牛肉輸入国でもある。肉牛産業は国内の農産物販売額に占める割合が最大となっており、米国農業の中でも最も重要な部門の一つとなっている。

肉用子牛生産は、家族経営による生産・管理が行われる一方、育成された肥育もと牛は、大規模なフィードロット

で効率的な穀物肥育が行われている。また、肉牛の流通面では、大手パッカーによる寡占化が顕著となっている。

① 肉牛の生産動向

ア 肉用牛繁殖経営体数

肉用牛繁殖経営体数(年間に 1 頭以上飼養)は、近年減少傾向で推移しており、2012 年は 72 万 9000 戸(前年比 0.7%減)となった(表 6)。

表 6 肉用牛繁殖経営体数、飼養頭数の推移

(単位:戸、千頭、頭/戸)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
肉用牛繁殖経営体数	757,000	751,000	742,000	734,000	729,000
繁殖雌牛頭数	32,435	31,712	31,371	30,850	30,158
1戸当たり飼養頭数	43	42	42	42	41

資料:USDA「Cattle」Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」

注 1:繁殖雌牛頭数は、各年 1 月 1 日現在のもの

2:1 戸当たり飼養頭数は、繁殖雌牛頭数を経営体数で除したもの

イ 飼養頭数

2012 年 1 月 1 日現在の牛総飼養頭数は、9077 万頭(前年比 2.1%減)となった。米国のキャトルサイクルは、1996 年をピークに 8 年連続で減少した後、2005 年にはいったん上昇局面に転じた。しかし、2006 年のテキサス州を中心とした中南部における干ばつ、また、2006 年後半以降の飼料コスト高の影響などにより、肉用牛繁殖経営の収益性が悪化し、肉用繁殖雌牛の保留が抑制された結果、牛の総飼養頭数は減少傾向で推移している。

2012 年 1 月 1 日現在の飼養頭数の内訳を見ると、肉用繁殖雌牛は 3016 万頭(前年比 2.2%減)となった一方、500 ポンド(約 227 キログラム)以上の肉用繁殖後継牛は、干ばつの影響が緩和されていることを受け、526 万頭(同 2.4%増)と増加に転じた。

他方、2012 年の子牛生産頭数(乳用種を含む)は、長期的に肉用繁殖雌牛の飼養頭数が低水準で推移していることから、3428 万頭(前年比 2.9%減)となった。

フィードロットの風景



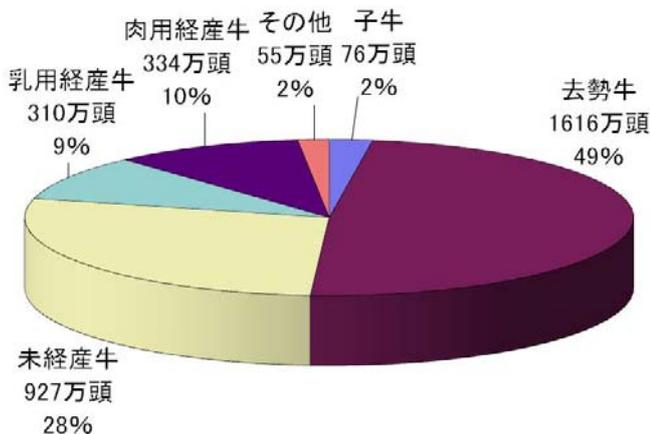
② 牛肉の需給動向

ア 生産動向

2012年の成牛と畜頭数(コマーシャルベース)は、3295万頭(前年比3.3%減)となった。

種類別(連邦政府検査ベース)では、乳用経産牛が同6.4%増となった一方、肉用経産牛は同11.9%減、去勢牛が同2.3%減、未經産牛は同4.7%減となった。また、子牛も繁殖雌牛頭数の減少を背景に同9.4%減とかなりの程度減少した(図6)。

図6 種類別と畜頭数(2012年)



資料: USDA「Livestock Slaughter」

一方、2012年の成牛のと畜時平均生体重(連邦政府検査ベース)は、肥育牛価格の上昇などを背景に前年比11.3キログラム増の591.9キログラムとなった。また、平均枝肉重量(連邦政府検査ベース)は、358キログラム(前年比2.2%増)と前年をわずかに上回った。2012年の肥育主要7州(アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、テキサス)の肥育もと牛導入頭数は、1942万頭(同6.5%減)、また、肥育牛出荷頭数は1925万頭(同2.2%増減)となった。

2012年の牛肉生産量(枝肉重量ベース)は、と畜頭数が減少したことから、1175万トン(前年比1.1%減)となった(表7)。

表7 牛肉需給(枝肉換算)の推移

(単位:千トン)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	12,095	11,778	11,932	11,882	11,754
輸入量	1,151	1,191	1,042	933	1,007
輸出量	905	878	1,043	1,263	1,112
在庫量	291	256	265	272	276
消費量	12,334	12,173	11,970	11,584	11,682
1人当たり消費量 (年間、キログラム)	28.3	27.7	27.0	26.0	26.0

資料: USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook: Table」

注: 1人当たり消費量は小売重量ベース

イ 輸出入動向

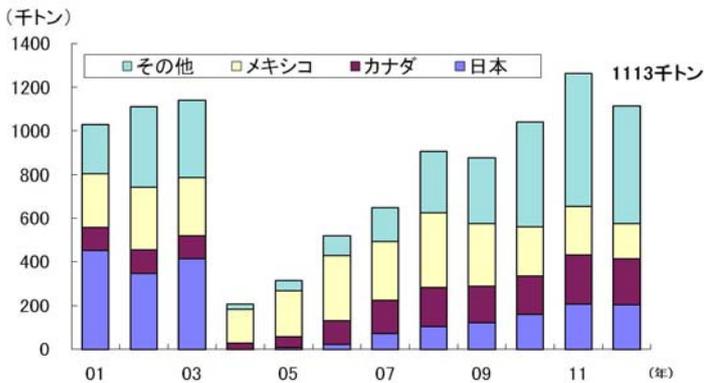
2012年の牛肉輸入量(枝肉重量ベース)は、牛肉生産量が減少となったことから、100万7000トン(前年比7.9%増)となった。国別に見ると、最大の輸入先のカナダは、24万3800トン(同22.0%減)となった一方、豪州からの輸入は、同国のと畜頭数が前年を上回り輸出向けが増加したことから、29万6900トン(同44.8%増)と大幅な増加となった。

一方、同年の生体牛の輸入は、米国内の牛飼養頭数の減少を受け、メキシコが146万8200頭(前年比3.3%増)となり、カナダも81万4600頭(同18.7%増)となり、全体

では228万2800頭(同8.3%増)とかなりの程度増加した。

2003年12月、米国内で初めてBSEが発生した影響を受け、2004年に大幅に減少した牛肉輸出量は、2005年以降順調に回復し、2009年は前年をやや下回ったものの、2011年は米ドル安やアジア・中東向け輸出に後押しされ、大幅な増加となった。2012年の輸出量は、牛肉生産量の減少に加え豪州などの輸出増を背景に111万2400トン(前年比11.9%減)とかなり大きく減少した。国別では、最大の輸出国であるメキシコ向けが15万9500トン(同27.9%減)、カナダ向けは21万1900トン(同6.6%減)、日本向けは20万3800トン(同1.5%減)、いずれも減少となった(図7)。

図7 牛肉の輸出量と相手国



資料: USDA/ERS「Livestock and Meat Trade Data」

ウ 消費動向

1人当たり年間牛肉消費量(小売重量ベース)は、牛肉価格高や消費者嗜好の変化により、年々、減少傾向で推移したものの、2012年は、26.0キログラム(前年比0.2%増)と横ばいとなった。

③ 肉牛・牛肉の価格動向

ア 肥育もと牛価格

肥育もと牛価格(オクラホマシティー、600~650ポンド)は、2012年平均では、100ポンド当たり158.2ドル(前年比12.0%高)となった(表8)。

イ 肥育牛価格

チョイス級^(注)肥育牛価格(ネブラスカ、1,100~1,300ポンド、去勢牛)は、2012年平均で100ポンド当たり123.1ドル(前年比6.9%高)となり、かなりの程度上昇した。これは、主に繁殖雌牛頭数減により肥育もと牛頭数が減少したことが要因と考えられる。

(注)肉質等級のうち、上から2番目の等級

ウ 牛肉卸売価格

2012年の卸売価格(チョイス級、600~900ポンド、カットアウトバリュー)は、100ポンド当たり190.7ドル(前年比5.2%高)となった。

エ 牛肉小売価格

2012年の平均牛肉小売価格(チョイス級)は、ポンド当たり502.3セント(前年比4.1%高)となった。

表8 肉牛、牛肉の価格の推移

(単位:ドル/100ポンド)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
肥育もと牛	107.6	101.9	115.1	141.2	158.2
肥育牛	92.3	82.7	95.0	115.2	123.1
牛肉卸売価格 (カットアウトバリュー)	153.2	140.8	156.9	181.3	190.7
牛肉小売価格 (セント/ポンド)	432.5	426.0	439.4	482.7	502.3

資料: USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook: Table」

注: カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。枝肉そのものではない。

(3) 養豚・豚肉産業

米国の養豚産業は、アイオワ州やイリノイ州を中心とするコーンベルト地帯において、伝統的に穀物生産や肉牛経営の副業として営まれてきた。一方、ノースカロライナ州やオクラホマ州でのインテグレーションの出現は、養豚産業に対して、生産・流通などの面で大きな変化をもたらしてきた。また、各州で環境規制を強化する動きがみられることから、大規模経営体による環境問題も顕在化している。

① 豚の生産動向

ア 養豚経営体数

養豚経営体数は、大規模層を除きおおむね各層で減少傾向で推移し、2012年は6万8300戸となった(表10)。飼養頭数規模別で見ると、100頭未満の層が全経営体数の71.3%を占めているものの、飼養頭数では全体の0.9%を占めるにすぎない。一方、5,000頭以上層は、経営体数全体の4.8%であるが、全飼養頭数の58.1%を占めており、この割合は増加傾向にある。

表9 養豚経営体数、飼養頭数の推移

(単位: 戸、千頭、頭/戸)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
養豚経営体数	73,150	71,450	69,100	69,100	68,300
総飼養頭数	67,148	64,887	64,925	66,361	66,348
1戸当たり飼養頭数	918	908	940	960	971

資料: USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」
「Agricultural Statistics」「Quarterly Hogs and Pigs」

注1: 飼養頭数は、各年の12月1日現在のもの

イ 飼養頭数

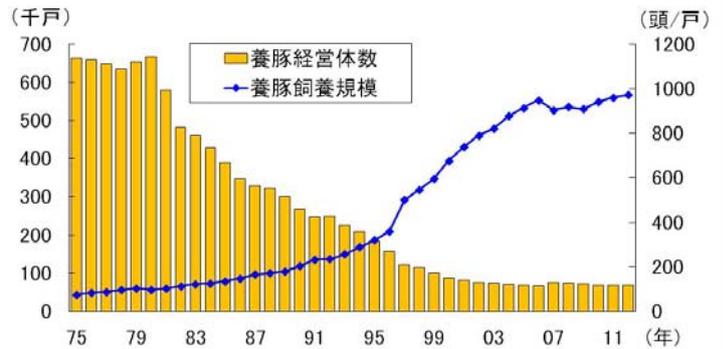
豚飼養頭数は、2003年以降は増加傾向で推移していたが、2007年をピークに減少に転じた後、2010年以降は再び増加傾向で推移し、2012年(12月1日現在)では、前年並みの6634万頭となった。飼養頭数の内訳を見ると、繁殖用豚は581万7000頭(同0.2%増)に、また、肥育豚は6053万1000頭(同0.1%増)となった。

2012年(2011年12月~2012年11月)の子豚生産頭数は、繁殖母豚が前年並みとなったものの、一腹当たり産子数が10.08頭(同1.1%増)となったことから、1億1679万頭(同0.8%増)となった。

肉豚の飼養風景



図8 養豚経営体数および飼養規模の推移



資料: USDA「Farms, Land in Farms, and Livestock Operations」
「Quarterly Hogs and Pigs」

② 豚肉の需給動向

ア 生産動向

2012年のと畜頭数(コマーシャルベース)は、1億1316万頭(前年比2.1%増)となり、豚肉生産量も1055万トン(同2.1%増)に増加した(表10)。

なお、2012年のと畜時平均生体重(連邦政府検査ベース)は、124.7キログラム(前年同)、また、平均枝肉重量(同)は、93.4キログラム(同)となった。

表 10 豚肉需給(枝肉換算)の推移

(単位:千トン)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	10,599	10,432	10,189	10,331	10,547
輸入量	377	378	390	364	364
輸出量	2,117	1,857	1,915	2,354	2,440
在庫量	288	238	245	246	283
消費量	8,806	9,013	8,653	8,341	8,440
1人当たり消費量 (年間、キログラム)	22.4	22.8	21.7	20.7	20.8

資料:USDA/ERS「Livestock and Meat Trade Data」

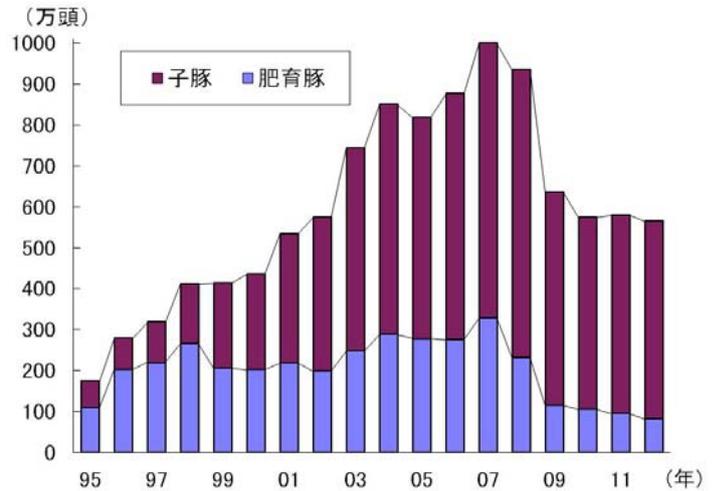
注:1人当たり消費量は小売重量ベース

イ 輸出入動向

豚肉の輸入量(枝肉重量ベース)は、2009年以降、増加傾向で推移したものの、2011年は豚肉生産量が増加したことからかなりの程度減少した。2012年も豚肉生産量が前年をわずかに上回ったことから、36万4000トン(前年比1.2%減)と2年連続で減少となった。国別に見ると、カナダが28万5400トン(同1.5%減(総輸入量に占める割合は78.5%))、デンマークが3万4100トン(同7.1%減(同9.4%))といずれも減少した。

また、生体豚の輸入は、ほぼ100%がカナダからのものである。同国からの輸入頭数は、同国の飼養頭数の減少や2008年9月末から実施された食肉の原産地表示(COOL)の強化などの影響などにより、2012年は、565万6400頭(同2.4%減)となった(図9)。

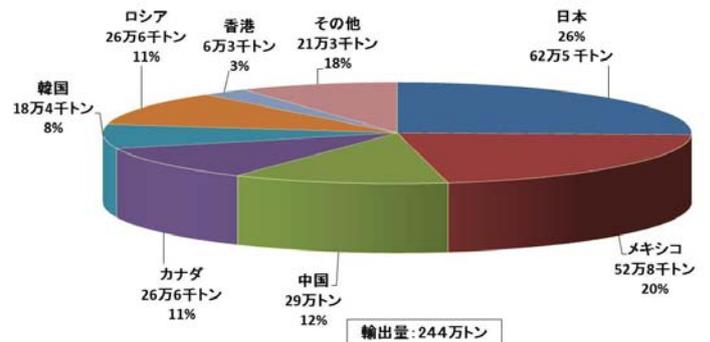
図 9 カナダからの生体豚輸入頭数の推移



資料:USDA/ERS「Livestock and Meat Trade Data」

一方、輸出量(枝肉重量ベース)は、1991年以降、前年を上回って推移したものの、2009年は世界的な景気の後退による需要の減退や、豚にみられた新型インフルエンザ(H1N1)発生に伴う各国の輸入禁止措置により、一時的に減少した。しかしながら、2010年以降の輸出再開により、2012年は244万トン(前年比3.7%増)となった。国別に見ると、最大の輸出先であり、全体の26%を占める日本向けは62万5000トン(同7.0%減)と減少したものの、第2位のメキシコ向けは、価格帯の安い豚肉を中心に需要が増えたことから、52万8000トン(同12.1%増)となった(図10)。次いで中国向けは29万トン(同4.4%減)、カナダ向けは26万6000トン(同16.9%増)となった。

図 10 豚肉の輸出相手国(2012年)



資料:USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook」

ウ 消費動向

1 人当たり年間豚肉消費量(小売重量ベース)は、ほぼ横ばいで推移していたが、2012 年は豚肉生産量が増加し、上昇基調にあった豚肉価格が緩んだことから、20.8 キログラム(前年比 0.4%増)とわずかに増加した。

③ 肥育豚・豚肉の価格動向

ア 肥育豚価格

肥育豚価格は、2005 年以降、生産量の増加などにより低下傾向となり、2009 年には世界的な景気の後退や新型インフルエンザなどによる内需・外需の減退から、100 ポンド当たり 41.2 ドルに下落した。しかし、2011 年は、輸出需要の高まりなどにより、過去最高を記録した。2012 年は飼料穀物価格の上昇を受け、一時的に早期出荷が増加したことから、60.9ドル(前年比 7.9%安)となったものの、60ドル台の高値を維持した(表 11)。

表 11 肥育豚、豚肉の価格の推移

(単位:ドル/100ポンド)

区分	2008	2009	2010	2011	2012
肥育豚	47.8	41.2	55.1	66.1	60.9
豚肉卸売価格 (カットアウトバリュー)	69.2	58.1	81.3	93.7	84.5
豚肉小売価格 (セント/ポンド)	293.7	292.0	311.4	343.4	346.7

資料:USDA「Livestock, Dairy and Poultry Situation and Outlook: Table」

注 1:肥育豚価格は、全米の平均価格。

注 2:カットアウトバリューとは、各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。枝肉そのものではない。

イ 豚肉価格

・ 部分肉卸売価格

2012 年の部分肉卸売価格(カットアウトバリュー)は、100 ポンド当たり 84.5ドル(前年比 9.8%安)となった。

・ 豚肉小売価格

2012 年の平均豚肉小売価格は、国内消費量が好調に推移したことから、1 ポンド当たり 346.7 セント(前年比 1.0%高)となった。

(4) 養鶏・鶏肉産業

米国の養鶏産業は、飼料穀物の一大生産国という利点を生かし、生産から流通までの一貫したインテグレーションの進展により、極めて効率的なものとなっている。

また、国内では、消費者の健康志向からむね肉を中心として消費を大きく伸ばすと同時に、不需求部位のもも肉を中心に、鶏肉生産量の 2 割弱を輸出している。

① ブロイラーのふ化羽数の動向

2012 年のブロイラー用ひなふ化羽数は、生産者販売価格が前年を上回って推移したものの、飼料穀物価格が高値で推移したことなどから、89 億 6500 万羽(前年比 1.0%減)となった。

② 鶏肉の需給動向

ア 生産動向

2012 年のブロイラー生産量は、1 羽当たりの重量が増加したものの、ブロイラーふ化羽数が減少したことにより、1662 万 1000 トン(前年比 0.4%減)となった(表 12)。1 羽当たり平均重量(生体ベース)は、骨なしむね肉の需要増に伴うブロイラーの大型化を背景に近年増加傾向にあり、2012 年は 2.65 キログラム(同 0.9%増)となった。

表 12 ブロイラー需給(可食処理ベース)の推移

(単位:千トン)

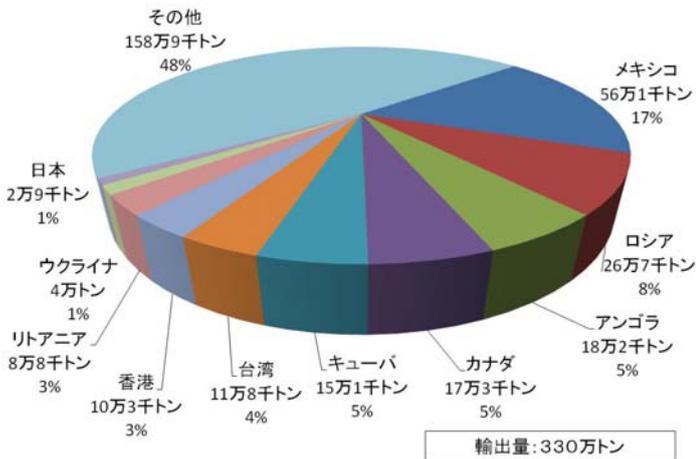
区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産量	16,561	15,935	16,563	16,694	16,621
輸入量	43	45	48	49	51
輸出量	3,157	3,093	3,067	3,165	3,300
在庫量	338	279	350	268	295
消費量	13,435	12,946	13,473	13,660	13,344
1人当たり消費量 (年間、キログラム)	37.9	36.2	37.4	37.6	36.5

資料:USDA「Livestock, Dairy and Poultry Outlook: Table」
注:1人当たり消費量は小売重量ベース

イ 輸出動向

ブロイラーの輸出量は、2005年以降おおむね増加傾向で推移し2012年は330万トン(前年比4.3%増)となった。輸出先上位3カ国を見ると、メキシコ向けは同22.9%増、ロシア向けは同25.3%増、アンゴラ向けは同11.5%増となった(図11)。

図 11 鶏肉の輸出相手国(2012年)



資料:USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Situation and Outlook」

ウ 消費動向

1人当たりの年間鶏肉消費量(小売重量ベース)は、小売価格が上昇したことなどから、2012年は36.5キログラム(前年比2.9%減)となった。

③ ブロイラーの価格動向

ア ブロイラー価格

2012年のブロイラー価格は、1ポンド当たり51.4セント(前年比10.1%高)となった(表13)。

イ 鶏肉価格

・卸売価格

2012年のブロイラーの丸どり卸売価格(中抜き、12都市平均)は、1ポンド当たり87.1セント(前年比10.3%高)となった。なお、国内向けが主体となっているむね肉がポンド当たり135.0セント(同7.9%高)、輸出向けが主体のもも肉は同70.1セント(同8.2%高)とどちらも上昇となった。

・小売価格

ブロイラーの丸どり小売価格(中抜き)は、1ポンド当たり142.2セント(前年比10.1%高)となった。

表 13 ブロイラー、鶏肉価格の推移

(単位:セント/ポンド)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生産者販売価格 (生体)	46.6	45.2	49.1	46.7	51.4
卸売価格 (丸どり)	79.7	77.6	82.9	79.0	87.1
丸どり小売価格	120.7	127.8	126.3	129.1	142.2

資料:USDA「Livestock, Dairy, and Poultry Outlook: Table」

(5) 飼料穀物

米国は、世界最大の飼料穀物の生産・輸出国である。飼料穀物の主力であるトウモロコシは、世界の生産量の約4割、世界の貿易量の約5割を占めていることから、世界の需給動向に与える影響力は極めて大きなものとなっている。

① 穀物の生産動向

2012/13年度(9月～翌8月)のトウモロコシ(サイレージ用を除く)の生産量は107億8000万ブッシェル(2億7400万トン)(前年度比12.7%減)と、前年度を大幅に下回った(表14)。これは、2012年6月以降に発生した干ばつの影響により、受粉障害が起こり、子実形成が不十分となったことから、1エーカー(約0.4ヘクタール)当たりの単収が、123.4ブッシェル(1ヘクタール当たり7.8トン)(同16.2%減)と、前年度を下回ったためである。2012/13年度期末在庫は、この減産により8億2100万ブッシェル(2100万トン)(同16.6%減)となった。

表14 トウモロコシ需給の推移

(単位:百万トン)

区分/年度	08/09	09/10	10/11	11/12	12/13
生産量	307	333	316	314	274
国内消費量	259	282	285	279	264
うち飼料向け	132	130	122	115	110
輸出量	47	50	47	39	19
期末在庫量	42	43	29	25	21

資料:USDA「Feed Grain Database: Yearbook Tables」

トウモロコシの収穫風景



② 穀物の輸出動向

2012/13年度のトウモロコシの輸出量は、7億3000万ブッシェル(1900万トン)(前年度比52.5%減)と大幅な減少となった。このうち、最大の輸出先国である日本向けは、650万トン(前年度比44.4%減)と2年連続で前年を下回った。

③ 穀物の価格動向

2012/13年度のトウモロコシの生産者販売価格は、干ばつによる大幅な減産となった中、燃料用エタノール原料向けなどを中心に国内消費量が前年を上回ったことから、1ブッシェル当たり6.89ドル(前年度比10.8%高)となった(表15)。

表15 トウモロコシ価格の推移

(単位:ドル/ブッシェル)

区分/年度	08/09	09/10	10/11	11/12	12/13
生産者販売価格	4.06	3.55	5.18	6.22	6.89

資料:USDA「Agricultural Prices」